

from

令和8年9月発行

ほうかつ

特集

在宅医療・介護・福祉の連携

～つまずきやすい各種医療費助成制度の
申請手続きの壁！負担の軽減をめざして～

地域包括支援センターは、地域住民の心身の健康保持と生活安定を目的に設置され、高齢者・障がい者を問わず、必要な支援やサービスにつなぐ総合相談窓口として機能します。檜葉町では、医療・介護・福祉等の分野での「多職種連携」が進んでいます。多職種連携とは様々な職種がチームを組んで共通の課題に取り組むことを言い、専門機関だけでなく、町民の皆さんもチームの一員です。

今回は、事例から檜葉町の『多職種連携のいま』をお伝えします！

多職種連携の協議の場

～ワーキンググループの活用～

ワーキンググループとは、地域の課題解決に向けて関係機関と連携し、情報共有や協議、具体的な取り組みを検討する役割を持っています。

現在課題となっている事例 『各種医療費助成制度の申請手続き』

令和8年4月から医療費および介護サービス利用料の自己負担免除が終了したことにより、障がい分野の各種助成制度に該当する方においては自己負担の軽減のための申請手続きや窓口等での記録の提出、複数の制度併用による医療機関やサービス事業所とのやり取りについて混乱を感じている状況がありました。そこで、医療・介護・福祉・行政の各関係機関が集まり、ワーキンググループを通じて現状の課題点、対象者が今後はスムーズに申請手続きを行えるための改善策の協議を行いました。



自分は対象なの？
障がい手帳2級以上
必要なの？
特定疾病って？



手続きが
煩雑で難しい。
自分は制度に
当てはまるの？

・特定疾病療養受療証
・指定難病医療費受給者証
・自立支援医療受給者証
・重度心身障害者
医療費受給者証…など

課題

- ・対象になっている方が申請方法がわからずに申請出来ていない
- ・家に文書が届いても内容が分かりにくくて手続きが出来ていない

「ワーキンググループでの話し合いで、
連携の為に必要なことを確認しました！」



行政



いつでもご相談ください

- ・対象になる方が確実に制度利用につながる事が重要
- ・役場からの文書に目を通してもらえる工夫が必要
- ・障がいのある方にも分かりやすく伝える視点が必須

みんなで支え合う町 檜葉町！

連携



連携



「何かあったらみんなで共有し合いましょう」



医療



- ・対象になる患者さんへの情報提供、申請窓口のお知らせを継続する。
- ・服薬状況を確認しながら申請がすすんでいるか気に掛ける。
- ・薬局の窓口にも申請用紙を配置しておくのも良いかもしれない。



福祉・介護



包括

ケアマネジャー

- ・医療費助成制度の利用までの手続きに支援を要する人が居ないか把握が大事
- ・担当している利用者さんが各制度の対象になるのか定期的に確認が必要

相談を受け、福祉や医療に関する各相談窓口同士が連携し、課題の整理を行い、様々な相談に対応していきます！

連携・協働する支援機関との繋がりを大切にしています！

檜葉町の多職種連携のすごいところは、医療・介護・福祉等の専門職が分野を超えて連携をしており、情報共有しながらそれぞれの専門性を発揮し、一人ひとりのニーズに合った支援を実践していることにあります。また、町民の皆さんもチームの一員であり、普段の気に掛け合い、声を掛け合うことが地域の大きな力となっています。

医療・介護・福祉・地域のチーム連携により、町民のみなさんのより良い暮らしを支えることができ、檜葉町の目指す地域包括ケアシステム(医療・介護・福祉・地域支え合い等の一体的な提供)の実現が可能となります。

地域包括支援センターでは、これからも、地域課題に応じて様々なワーキンググループ(協議の場)を開催し、多職種と連携しながら課題の解決に向けて取り組んでいきます。

高齢者・障がい者の総合相談窓口

TEL:0240-25-4155 FAX:0240-25-4156

〒979-0604 檜葉町大字北田字鐘突堂5-5 (檜葉町保健福祉会館3F)

Email: naraha-houkatsu@car.ocn.ne.jp



お気軽に
ご相談ください。



地域ミニデイ

それぞれが特別な オンリーワン！

～その④ 中満なかまサロン～

地域に暮らす誰もが大切なお近所さん♪
中満なかまサロンの魅力をご紹介します！

“みんなで楽しく”
がモットーです♪



保健師さんや看護師さんの
健康講話も、いつも楽しみ
にしているよ！



お互いの近況を話したり、健康づくりの情報交換、
ゲーム、歌、ストレッチ体操…。いつもみんなで楽しく
わいわい、元気なおしゃべりが尽きません♪

ここが
すごい！

様々な行政区出身の方々が暮らす団地だからこそ、
新しいつながりを大切にするのが、中満なかまサロンの魅力！

中満なかまサロンの始まり

約8年前に、中満南住宅団地で新しくスタートしました。当時は近所に誰が住んでいるのかお互いによく分からず、入居高齢者が孤立する状況もみられたことから、地域包括支援センター職員が一軒ずつ訪問して「サロンを開催するので来てみませんか？」と声を掛け、4人の参加者でサロンがスタートしました。

サロンに遊びに
来ませんか♪



広がる支え合いの輪

ご近所の輪はどんどん広がり、参加者はあっという間に約3倍に増えていきました。今では、準備から後片付けまでお互い協力して行っており、普段来ているメンバーがいないと、「あれ？〇〇さん、今日は来ないのかな？」と声掛けに行ったり、団地内に生活状況の心配な方がいれば、地域包括支援センターに相談が寄せられることもあります。

どこにも出掛ける場所がなく閉じこもりぎみの人がいると“ほっとけないべよ”“なかまサロンにおいで～！”と声を掛けるのが中満なかまサロンの日常です。気に掛け合い、声を掛け合う地域のつながりをとても大切にしています。

いつもみんなで話
し合って活動内容
を決めています♪



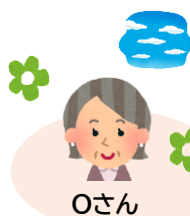
地域エピソードを ご紹介♪



発見、隠れ専門職！！



〇さん（80代女性）は、約8年前に帰町し災害公営住宅で暮らしています。老人クラブや地域ミニデイをはじめ、様々な地域活動に参加し、いつも元気な〇さん。近所でも顔なじみの多い〇さんに、地域とのつながりについてお伺いしました。



◆何気ない挨拶から地域の顔なじみへ

「災害公営住宅に来た当時は、どんな人が住んでいるか分からなかったけど、挨拶するうちに顔なじみが増えてきました」と話す〇さん。一人暮らしの高齢者も多いため、顔を見ない日が続くと「あれ？元気かな？」と気になってご近所さんに声を掛けに行くこともあるといいます。

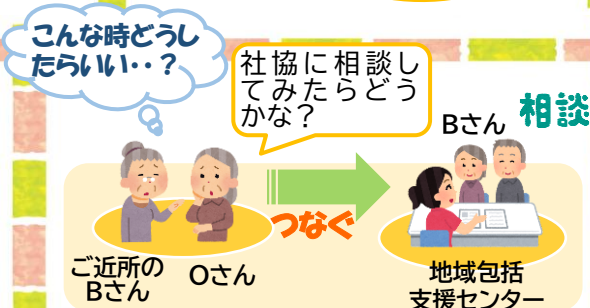
顔を見に行ったら、体調を崩して家から出られなくなっており、病院受診につながったこともあったそうです。日頃の支え合いがいざという時の安否確認につながったと言えます。

～〇さんと地域とのつながり～



◆地域の“困った”に寄り添う・つなぐ

ご近所さんから困り事の相談があった時、〇さんが気に掛けていることは、相手の立場に立って考えてみることでそうで…。嫁の立場、姑の立場、連れ合いを亡くした立場…その立場になってみないと分からないことがある、とのこと。「困った時はお互い様だっぺよ。私だって周りに助けられてるもの」とにこやかに話す〇さん。
“1日1日を笑顔で楽しく”をモットーとされていました。



相手の立場に立って話を聞き、共感する〇さんの姿勢は、福祉の専門職が学ぶ『相談援助』そのものだと言えます。〇さんのように、気に掛け・声掛けが自然にできている人は、地域にもっといるんだろうと思います♪

みんなのつぶやき「もしもオリンピック選手になれるなら」



センター長 江尻

「カーリング」

運動全般苦手な私が、唯一プレイしている自分の姿を想像できるかも。
“ヤップ、ヤップ、ヤップ…ソダネ～”



生活支援コーディネーター 小林

「アーティスティック
スイミング」

小学校の頃は水泳部、その後大学までスイミング通いしていました。夢は、馬上看護師と一緒に水上での競演です。



社会福祉士 岡崎

「フェンシング」

剣を巧みに扱い、立ち振舞いがカッコいいフェンシングに憧れます！まずは、剣の素振りから頑張ってみます！！



看護師 馬場

「新体操 リボン」

音楽に合わせ華麗な演技を!! レオタードの色は「真っ赤」。情熱、愛を表現します。レオタードを着ている私を想像してください。

